

# 新井満・いのちの交響楽

開催日 **2016年5月31日(火)** 会場 **金沢歌劇座**

- 1 講演と歌唱「千の風に吹かれながら、人生を想う」新井満
- 2 講演「いまを生きる力」五木寛之
- 3 対談と朗読・歌唱「きのう きょう あす」五木寛之×新井満
- 4 フィナーレ 金沢カペラ合唱団+新井満  
合唱「Elegyこころの道」「大河の一滴」「千の風になって」



「きのう きょう あす」の主人公は女性ですか？」

## 五木寛之さんの作家人生スタートの地・金沢にて人生を豊かに生きる知恵をテーマに開催されました

### 新井氏講演～ 「般若心経」が説く人生の教え

妻を亡くした友人一家を慰めるために新井さんが作曲した名曲「千の風になって」。吹き渡る風や光や星、鳥となって、いつもあなたの傍らにいて、死者が生者に語りかけます。この天上からのメッセージソングを作者の新井さん自らが歌います。「死者のぶんまで元気に生きることこそ、生き残った私たちができる最大の供養」と、前段が締めくくられます。

今回の演題は「千の風に吹かれながら、人生を想う」。人生とは何か。学生時代に大病を患い死線をさまよった経験をこえて、新井さんがその答えを見出したのは、「色即是空」「空即是色」のフレーズで知られる「般若心経」でした。

後に新井さんは考えます。「般若心経」は、日本人が最も親しむお経なのに、意味も解らず、ただ唱えるだけのお経になっているのは勿体ない・・・そして「自由訳・般若心経」に取り組んだのです。

新井さんは「空」の意味を「変化すること」と読み解きます。「色即是空」は「すべて変化し滅びゆく」こと、「空即是色」は「また生まれてくる」ことであると。それは「万物は変化し滅びゆく。だからこだわりを持つな。執着を捨てれば、心に平安が訪れる」という人生への教えなのだ。

最後に新井さんは、朗々とした声で「自由訳・般若心経」を朗読します。

あなたは意味もなく、この世に生まれてきたわけではない。  
無数の様々な原因と条件が寄り集まって、生まれてきたのだ。  
つまり、生まれる意味があったからこそ、あなたは生まれてきたのだ。  
そのことを思うと、不思議な気分になるね・・・  
そうなのだ。  
今、生きているあなたとは、  
奇跡のような存在であると言っても過言ではない。  
まことにまことに、ありがたい存在でもあるのだよ。

壮大な現代の叙情詩として蘇った「般若心経」。お釈迦様と新井さんのコラボレーションが、いまを生きる私たちの心に、直球で飛び込んできました。

### 五木氏講演～ “寄り添う”親鸞のあたたかさ

仏教には「知恵」のほかに「慈悲」という教

えがあると、五木さんは語りだします。「慈悲深い」などといいますが、本来は「慈」と「悲」と別の意味。「慈」には「励ます」の意味があり、前向きで明るいイメージ。「悲」は「呻く」の訳で、言葉なく、相手の悲しみに寄り添い、見守るというニュアンス。

人間にとって励まし合いは非常に大事なことです。一方で、どうしても辛い時に、頑張れと励まされても、なおさら気が滅入ってしまうのも人間。そんな場合に心を慰めるのは「慈」よりもむしろ「悲」ではないかと五木さんは言います。

親鸞は「二人居ると思え。その一人は親鸞である」と説き、嬉しいときも、悲しく孤独なときも親鸞が寄り添っていると諭しています。この身近さ、温かさこそが、孤独を抱えた現代人が親鸞に惹かれる理由ではないかと五木さんは語ります。「黙って見守ることが慰めとなる。無言の励ましも生きる力をもたらす」と結ばれました。

### 対談～お二人による新曲 「きのう きょう あす」を披露

70年代、五木さんが書き下ろした「青春の門」関連の詞に作曲者が公募され、新井さんは迷わず応募するも、残念ながら佳作。「以来40年、五木さんの詞に曲をつけるのが夢でした」という新井さんは、その夢の実現を報告します。

その歌は、昨秋、住友生命健康財団の創立30周年を記念して生まれた「きのう きょう あす」。作詞の五木さんが朗読し、作曲の新井さんが歌唱する「人生の応援歌」に、拍手喝采が送られました。

その手のぬくもりが 忘れられない  
あのときのほほえみは いまも心に  
ふりむけば 幾年月  
歩き続けて きょうまで  
足あとは消えても 思い出はのこる  
過ぎ去りし日々に ありがとう  
この道を 歩いて よかった  
もう一度もう一度 自分に ありがとう

今回の開催地・金沢は、五木さんが作家を志し、直木賞受賞の知らせを受けた“第二の故郷”ともいえる場所。フィナーレには、五木さんの命名による「金沢カペラ合唱団」が登場。東日本大震災の鎮魂に五木さんが書き下ろした「Elegyこころの道」はじめ、「大河の一滴」「千の風になって」の力強い合唱で、幕は閉じられました。



作者自ら歌う「千の風になって」



「他力とは、他人任せにすることではないんです



金沢カペラ合唱団と感動のフィナーレ



来場者約1700名の熱気